

ベトナム 内視鏡検査の課題(1/2)

一方で、**経済成長に伴い生活習慣病と癌などの消化器疾患が増加**している。このような状況下で、消化器疾患に対して有効な診断・治療技術で、尚且つ日本が主導的ポジションにある内視鏡検査の普及が望まれているが、ベトナムでは**内視鏡医が絶対的に不足**していることと、その**技術が日本ほど高くない**ことが問題である。内視鏡医の不足に関して言えば、約8,800万人のベトナムの人口に対して約500名程度（人口10万人に対して約0.5人）であり、我国（人口10万人に対して約13.2人）と比較して非常に少ないと言える（図表1）。その結果として、内視鏡医不足により適切な診療を受けられない患者が多数存在していることも事実である。

その中、名古屋大学はベトナム中部のフエ医科薬科大学と平成20年より肝炎の共同研究を行っていたが、平成23年にはフエ医科薬科大学より内視鏡指導と若手医師の育成が要望され、平成24年10月に両大学間で学術交流協定を締結した。その後の24年11月にベトナム保健省を訪問し保健省よりカリキュラムの作成を要望され、また平成25年2月にはフエ医科薬科大学の若手内視鏡医の実技指導を行うと共に現地の医療設備確認のために医師2名を派遣している（2月3日～2月6日）等、現地政府との関係構築/強化が図れている。

加えて、現地医療機関は内視鏡医不足の解消に向けてトレーニングセンター設立を検討し始めている。フエ医科薬科大学のThanh学長から名古屋大学の濱口総長に、日本製器材の提供と学術支援についても相談があった。名古屋大学は、ベトナムでの内視鏡医育成を加速するためには、**中部の拠点**である**フエ医科薬科大学病院**のみならず**北部の拠点**病院である**バクマイ病院（ハノイ）**、**南部**の拠点病院である**チョーライ病院（ホーチミン）**とも連携が必要と考えている。

ベトナム 内視鏡検査の課題(2/2)

かような状況の中、ベトナムでの内視鏡医を増加させるためには、カリキュラムと実技指導をあわせた内視鏡診療トレーニングシステムを普及させることが、内視鏡医の増加と次世代に技術を伝える仕組みを作ることが重要と考えられる。

図表 1：内視鏡医比較（平成 23 年）

	日本	ベトナム
国旗		
総人口	1億2735万人	8800万人
内視鏡医 総数	16732人	500人
人口10万人 あたりの数	13.2人	0.5人

出所) 日本内視鏡学界、及びベトナム内視鏡学会の情報を基にコンソーシアム作成